

令和 4 年度支部事業実施状況

(令和5年1月31日現在)



日本赤十字社 山形県支部
Japanese Red Cross Society

1 国内災害救護

「災害から人々のいのちと健康を守ること」を軸として、災害時の初動救護活動を迅速・的確に行うための人材の育成に努めるとともに器材の整備を行い、地域においては防災・減災に関する知識の普及啓発活動を推進し、災害対応能力の強化を図る。

(1) 医療救護班の編成と防災ボランティアの登録

県内9か所の自治体病院等に赤十字医療救護班を編成するとともに、赤十字救急法等指導員からなる防災ボランティアを登録している。

① 医療救護班の編成状況

地区	救護班名	救護班員の登録者						こころの ケア 指導者
		医師	看護師長	看護師	薬剤師	主事	計	
村山	日赤山形県立中央病院救護班	5名	2名	4名		3名	14名	2名
	日赤山形市立病院済生館救護班	1名	1名	2名		2名	6名	1名
	日赤北村山公立病院救護班	3名	1名	4名	1名	2名	11名	1名
	日赤山形県立河北病院救護班	1名	1名	2名		2名	6名	1名
最上	日赤山形県立新庄病院救護班	2名	1名	4名		3名	10名	2名
置賜	日赤米沢市立病院救護班	2名	1名	2名	1名	3名	9名	1名
	日赤公立置賜総合病院救護班	1名	1名	2名	1名	2名	7名	1名
庄内	日赤鶴岡市立荘内病院救護班	1名	1名	4名		2名	8名	2名
	日赤日本海総合病院救護班	1名	1名	2名		2名	6名	1名
合 計		17名	10名	26名	3名	21名	77名	12名

② 防災ボランティアの登録状況

村山地区	最上地区	置賜地区	庄内地区	合 計
42名	1名	10名	16名	69名

(2) 災害救護対応力の強化

① 地域防災訓練への参加

県及び市が主催する防災訓練に参加し、地域の防災関係機関と協働して災害発生時の初動期対応や相互連携について確認を行い、知識及び技術の向上に努めている。

No.	訓練名	期 日	場 所	参加者
1	山形県・東根市合同総合防災訓練	9月4日(日)	神町駐屯地 (東根市)	支部職員 4名
2	米沢市総合防災訓練	10月2日(日)	米沢市立 興譲小学校 (米沢市)	日赤米沢市立病院 救護班 6名 支部職員 2名 ・ 合計 8名
3	村山市防災訓練	10月30日(日)	村山市立 袖崎小学校 (村山市)	日赤北村山公立病院 救護班 6名 支部職員 2名 合計 8名
4	長井市総合防災訓練	11月6日(日)	長井市立 西根小学校 (長井市)	日赤公立置賜総合病院 救護班 5名 支部職員 2名 合計 7名

② 各種会議・研修会への救護班及び支部職員の派遣

新型コロナウイルス感染症の感染防止対策を十分に講じたうえで、各種会議・研修会に救護班及び支部職員を派遣し、知識の向上に努めている。

No.	研修・会議名	期 日	場 所	参加者
1	救護業務等担当課長会議(Web)	4月25日(月)	日赤県支部 (山形市)	支部職員 1名
2	救護業務打合せ会議	4月27日(水)	日赤県支部 (山形市)	救護班員 11名 支部職員 4名 合 計 15名
3	防災教育事業主任指導者研修(Web)	5月10日(火)	日赤県支部 (山形市)	支部職員 2名
4	山形県災害ボランティア支援ネットワーク 連絡会(Web)	5月25日(水)	日赤県支部 (山形市)	支部職員 1名
5	防災気象情報等に関する連絡会(Web)	5月27日(金)	日赤県支部 (山形市)	支部職員 1名
6	第1ブロック支部事業推進課長会議	6月16日(木) ～17日(金)	日赤福島県支部 (福島県)	支部職員 1名
7	山形県災害ボランティア支援本部設営 訓練(Web)	7月1日(金)	日赤県支部 (山形市)	支部職員 1名
8	原子力災害対応基礎研修会	7月23日(土) ～24日(日)	コラッセふくしま (福島県)	支部職員 1名
9	山形県災害ボランティアセンター運営 研修会(基礎編)(Web)	7月25日(月)	日赤県支部 (山形市)	支部職員 1名
10	山形県災害医療対策会議(Web)	8月9日(火)	日赤県支部 (山形市)	支部職員 1名
11	第2回防災教育事業主任指導者研修 (参集・Web)	11月8日(火)	日赤本社 (東京都)	支部職員 3名 (うち2名はWeb参加)
12	こころのケア指導者養成研修会	11月16日(水) ～17日(木)	日赤本社 (東京都)	支部職員 1名
13	蔵王猿倉スキー場安全合同総合訓練	12月20日(火)	蔵王猿倉スキー場 (上山市)	支部職員 1名

③ 防災ボランティアスキルアップ研修会の実施

赤十字防災ボランティアの意識の高揚とスキルアップを図り、災害時において効果的な救護活動を行うための人材の育成に努めている。

No.	期 日	場 所	参加者
1	12月17日(土)	日赤県支部 (山形市)	防災ボランティア 18名 支部職員 2名 合 計 20名
2	12月18日(日)	酒田市地域福祉センター (酒田市)	防災ボランティア 5名 支部職員 1名 合 計 6名

④ 日赤山形県支部災害救護訓練の実施

大規模災害発生時における初動からの基本的な活動を確認し、職員の災害対応力の向上に努めている。

No.	訓練名	期 日	場 所	参加者
1	大型テント[DRASH]設営研修	9月22日(木) 14:00～15:30	日赤県支部 (山形市)	支部職員 8名
2	日赤山形県支部災害救護訓練 (災対本部設置訓練・寒冷期災害 発生対応編)	1月26日(木) 10:00～11:30 16:30～17:00	日赤県支部 (山形市)	支部職員 13名



事務室内を照らすために投光器を使用



寒冷期、停電状態でも活動を継続実施

⑤ 防災士資格の取得

防災に関する幅広い知識を身につけ、災害発生時に適確な対応を取るために、昨年度の受講と合わせて支部職員全員が防災士資格を取得した。

No.	研修名	期 日	場 所	参加者
1	山形県防災士養成研修講座	10月15日(土) ～16日(日)	山形県庁講堂 (山形市)	支部職員 5 名

(3) 災害救護活動用器材の整備

野外炊飯器、ワンタッチテントの配備

災害時に迅速に救護活動を実施するため、野外炊飯器、ワンタッチテントを地区分区に配備した。

野外炊飯器配備先 (2)	尾花沢市地区、飯豊町分区
ワンタッチテント配備先 (5)	米沢市地区、新庄市地区、天童市地区、東根市地区、南陽市地区



事務局長から地区分区長へ器材の交付



奉仕団員への器材の説明

(4) 救援車の設置助成

災害時における地域住民の避難・救護活動、その他赤十字事業の推進を図るため、地区分区に対し、救援車の設置に係る経費を助成している。

助成先	米沢市地区、朝日町分区、遊佐町分区
助成額	3,000,000円(3地区分区×1,000,000円)



(5) 赤十字防災セミナーの実施

地域や赤十字奉仕団の要請を受け、新型コロナウイルス感染症の感染防止対策を十分に講じたうえで、支部職員を派遣し、防災・減災の知識についてセミナーを行っている。

No.	行事名	期 日	場 所	内 容	参加者
1	山形地区建設店社災害防止協議会防災セミナー	5月20日(金)	天童ホテル (天童市)	・大雨、土砂災害から命を守る ・暮らしをつなぐ ・感染症から身を守る ・災害救援物資について	山形・天童・上山市内の 各建設会社の安全担当者 15 名 支部職員 2 名 合 計 17 名
2	南陽市東部地区民生委員児童委員協議会防災セミナー	6月3日(金)	南陽市 赤湯公民館 (南陽市)	・日本赤十字社の活動紹介 ・日本赤十字社の国際活動について ・災害への備え	民生委員児童委員 5 名 支部職員 1 名 合 計 6 名
3	南陽市北部地区民生委員児童委員協議会防災セミナー	7月5日(火)	南陽市 金山公民館 (南陽市)	・大雨、土砂災害から命を守る ・暮らしをつなぐ ・感染症から身を守る ・災害救援物資について	民生委員児童委員 27 名 支部職員 2 名 合 計 29 名
4	丸七建設株式会社防災セミナー	7月7日(木)	滝の湯 ホテル (天童市)	・大雨、土砂災害から命を守る ・暮らしをつなぐ ・感染症から身を守る ・災害救援物資について	社員 100 名 支部職員 2 名 合 計 102 名
5	白鷹町わかあゆ会赤十字奉仕団防災セミナー	8月7日(日)	白鷹町 荒砥地区 コミュニティ センター (白鷹町)	・大雨、土砂災害から命を守る ・暮らしをつなぐ ・感染症から身を守る	赤十字奉仕団員 13 名 支部職員 1 名 合 計 14 名
6	南陽市西部地区民生委員児童委員協議会防災セミナー	9月1日(木)	ワトワ センター 南陽 (南陽市)	・大雨、土砂災害から命を守る ・暮らしをつなぐ ・感染症から身を守る ・災害救援物資について	民生委員児童委員 30 名 支部職員 2 名 合 計 32 名
7	令和4年度 赤十字ボランティア・ リーダーシップ研修	10月14日(金)	日赤県支部 (山形市)	・大雨、土砂災害から命を守る ・暮らしをつなぐ ・感染症から身を守る ・災害救援物資について	県内赤十字奉仕団員 11 名 支部職員 4 名 合 計 15 名
8	東根市蟹沢赤十字奉仕団防災セミナー	10月30日(日)	東根市 西部防災 センター (東根市)	・大雨、土砂災害から命を守る ・暮らしをつなぐ ・感染症から身を守る ・災害救援物資について	赤十字奉仕団員 45 名 地域住民 1 名 支部職員 1 名 合 計 46 名
9	山形市鍛冶町自治会 赤十字防災セミナー	10月30日(日)	菅原神社 集会所 (山形市)	・大雨、土砂災害から命を守る ・暮らしをつなぐ ・感染症から身を守る ・災害救援物資について	自治会会員 50 名 地域住民 1 名 支部職員 1 名 合 計 51 名
10	堀川土建株式会社 防災セミナー	11月9日(水)	上山市体育 文化センター (上山市)	・大雨、土砂災害から命を守る ・暮らしをつなぐ ・感染症から身を守る ・災害救援物資について	社員 59 名 支部職員 1 名 合 計 60 名

No.	行事名	期 日	場 所	内 容	参加者
11	山形市第五地区町内会 連合会防災セミナー	12月7日(水)	山形市 東部公民館 (山形市)	・地震から命を守る ・暮らしをつなぐ ・感染症から身を守る ・災害救援物資について	各町内会長・副会長 27名 支部職員 2名 合 計 29名
12	山形中央ロータリークラブ 防災セミナー	1月31日(火)	ホテルメトロ ポリタン山形 (山形市)	・日本赤十字社の 活動紹介	会員 25名 支部職員 1名 合 計 26名



民生委員児童委員協議会にて防災セミナーを開催



地域住民へ災害救援物資について説明

(6) 災害救護活動

① 令和4年8月3日からの大雨災害への対応

令和4年8月3日から5日にかけて山形県内で降った大雨により、各地で河川の氾濫や土砂災害、家屋の浸水等大きな災害が発生したため、被災者の救援活動に努めた。

ア 連絡調整員(リエゾン)の派遣

山形県災害対策本部に連絡調整員を派遣し、被災情報の収集及び関係機関との情報共有に努めた。

派遣先	派遣期間	活動内容	人 数
山形県災害対策本部 (山形県庁)	8月3日(水)～5日(金)、8日(月)	情報収集及び関係機関との連携 山形県災害対策本部員会議への 参加(計4回)	支部職員 延べ4名



支部災害対策本部の状況



山形県災害対策本部員会議への参加

イ 救援物資の搬送

救援物資のニーズを把握するため、支部から各地区分区に状況確認し、その結果に基づき救援物資を搬送し、被災者救援に努めた。

搬 送 先	救援物資・数量			
長井市 (長井市役所)	毛布	20枚		
	タオルケット	20枚		
川西町 (川西町役場)	毛布	200枚	緊急セット	10個
	タオルケット	200枚	安眠セット	3個
飯豊町 (飯豊町町民総合センター)	毛布	300個	緊急セット	78個
	タオルケット	300枚	水(2ℓ)	150本
合 計	毛布	520枚	緊急セット	88個
	タオルケット	520枚	安眠セット	3個
			水(2ℓ)	150本



川西町職員へ救援物資の引き渡し



飯豊町に搬送した救援物資

ウ 赤十字ボランティアの活動

被災した地域のニーズに合わせて、赤十字奉仕団がボランティア活動を実施した。

奉仕団名	期 間	活動内容	参加者
飯豊町赤十字奉仕団	8月6日(土)～10日(水)	被災住宅の片づけ	団員 30 名
	8月17日(水)～21日(日) 8月26日(金)～27日(土) 9月2日(金)～3日(土)	ボランティアセンター運営支援 (ボランティアへ水、タオル等の 差入れ)	団員 28 名
高島町赤十字奉仕団	8月17日(水)～21日(日) 8月26日(金)～27日(土) 9月2日(金)～3日(土)	ボランティアセンター運営支援 (受付業務)	団員 18 名
	8月26日(金)～27日(土)	・被災住宅の片づけ ・飯豊町社会福祉協議会に マスク入れ等の贈呈	団員 6 名



被災住宅の片づけを行う奉仕団員



ボランティアセンターで受付を行う奉仕団員

② 令和4年12月に鶴岡市で発生した土砂災害への対応

令和4年12月31日に鶴岡市西目地内で発生した土砂崩れにより家屋の損壊等大きな災害が発生したため、鶴岡市地区と連携し、状況の確認及び救援物資のニーズの把握を行った。(結果的には救援物資の搬送は不要とされた。)

(7) 被災世帯への援護

火災等で住家が被災した世帯に対して、毛布・緊急セット等の救援物資及び見舞金を交付したほか、災害(火災)による死亡者弔慰金を贈呈して被災世帯の援護を図っている。

[救援物資の配付及び見舞金、弔慰金の交付状況]

被災者数	81名 39世帯	
災害救援物資の配付	毛 布	47 枚
	緊急セット	29 個
	学用品セット	3 個
災害見舞金の交付 (全焼・全壊 29 件、半焼・半壊 9 件)		610,000 円
災害弔慰金の交付 (5 件)		100,000 円



被災世帯へ配布される災害救援物資(毛布・緊急セット・学用品セット)

(8) 国内義援金の受付状況

No	義援金名	件 数	金 額
1	平成30年7月豪雨災害義援金	4 件 (636 件)	3,221 円 (57,137,247 円)
2	令和2年7月豪雨災害義援金	6 件 (338 件)	7,443 円 (3,929,840 円)
3	令和3年2月福島県沖地震災害義援金	0 件 (184 件)	0 円 (879,090 円)
4	令和4年3月福島県沖地震災害義援金	153 件 (156 件)	637,682 円 (688,164 円)
5	令和4年7月大雨災害義援金	154 件 (154 件)	208,387 円 (208,387 円)
6	令和4年8月3日から的大雨災害義援金(山形県指定)	139 件 (139 件)	26,987,602 円 (26,987,602 円)
7	令和4年8月3日から的大雨災害義援金(指定なし)	69 件 (69 件)	224,893 円 (224,893 円)
8	令和4年台風第15号災害義援金	137 件 (137 件)	196,047 円 (196,047 円)
合 計		662 件 (1,813 件)	28,265,275 円 (90,251,270 円)

※()内は、受付開始からの累計受付件数及び受付額

2 救急法等の普及

人間のいのちと健康、尊厳を守るために、救急法等の5つの講習を通して、具体的な知識や技術を県民に広く普及し、緊急時の応急対応能力を高める。

(1) 指導員の登録状況

救急法	水上安全法	雪上安全法	幼児安全法	健康生活支援講習	合 計
121名	24名	3名	34名	3名	185名

※上記人数は、資格別登録者数。登録者実数は132名。

(2) 救急法等講習の実施

講習動画の視聴を取り入れ受講者同士の接触を無くすなど、新型コロナウイルス感染症の感染防止対策を十分に講じたうえで、講習の普及に努めている。

その結果、昨年度同時期より講習実施回数及び受講者数とも増加し、北海道・東北ブロック支部内で最多の実績となっている。

講習名	一般普及講習				短期講習		合 計	
	基礎講習		養成講習		実施回数	受講者数	実施回数	受講者数
	実施回数	受講者数	実施回数	受講者数				
救急法	19 回	306 名	感染防止対策を十分に講じたうえで支部主催の養成講習に限定して再開 (令和5年2月～)		228 回	6,166 名	247 回	6,472 名
水上安全法					20 回	493 名	20 回	493 名
雪上安全法					1 回	15 名	1 回	15 名
幼児安全法					70 回	1,157 名	70 回	1,157 名
健康生活支援講習					1 回	8 名	1 回	8 名
合 計	19 回	306 名			320 回	7,839 名	339 回	8,145 名



新型コロナウイルス感染防止対策を十分に講じたうえで、心肺蘇生を学ぶ受講者

(3) 指導員の育成

指導員と支部との連携を図るとともに、指導員の知識や技術の向上のため、新型コロナウイルス感染症の感染防止対策を十分に講じたうえで、各種会議・研修会等を開催している。

No	研修名	期 日	場 所	参加者
1	救急法等指導員会議	5月18日(水)	山形県総合運動公園 (天童市)	救急法等指導員 35名 支部職員 3名 合 計 38名
2	救急法指導員研修会	6月25日(土) 6月26日(日) 6月27日(月) 7月2日(土)	総合福祉センター (天童市) 体育文化センター (上山市) 地域福祉センター (酒田市)	救急法指導員 63名 支部職員 1名 合 計 64名
3	水上安全法指導員研修会	6月25日(土) 6月27日(月)	総合福祉センター (天童市)	水上安全法指導員 12名 支部職員 1名 合 計 13名
4	幼児安全法指導員研修会	6月26日(日) 7月2日(土)	体育文化センター (上山市) 地域福祉センター (酒田市)	幼児安全法指導員 17名 支部職員 1名 合 計 18名
5	救急法等指導員フォロー アップ研修	11月26日(土)	日赤県支部 (山形市)	救急法等指導員 2名 支部職員 1名 合 計 3名

(4) イベントを活用した救急法等の普及

一次救命処置の大切さを少しでも多くの県民の方に普及し、いのちの大切さについて広めていくために、新型コロナウイルスの感染防止対策を十分に講じたうえで、商業施設や地域のイベントにおいて一次救命処置体験コーナーを設置している。

No	行事名	期 日	場 所	参加者
1	「はたらくクルマ展」での 一次救命処置体験 コーナーの設置	6月12日(日)	イオンモール三川 (三川町)	体験者 約 200名 支部職員 3名 合 計 203名
2	「2022赤十字フェスタin たかはた」での一次救命 処置体験コーナーの設置	9月23日(金)	糠野目生涯学習館 (高島町)	体験者 約 100名 救急法等指導員 1名 支部職員 1名 合 計 102名
3	「赤十字フェスタinイオン モール天童」での一次救命 処置体験コーナーの設置 【新規】	9月23日(金)	イオンモール天童 (天童市)	体験者 約 100名 救急法等指導員 2名 合 計 102名
4	「アランマーレの試合会場」 での一次救命処置体験 コーナーの設置	12月3日(土)	山形県総合運動公園 (天童市)	体験者 20名 救急法等指導員 1名 支部職員 1名 合 計 22名
5	「パスラボ山形ワイヴアーズ の試合会場」での一次救命 処置体験コーナーの設置	12月18日(日)	山形県総合運動公園 (天童市)	体験者 30名 救急法等指導員 1名 支部職員 1名 合 計 32名



心肺蘇生に一生懸命取り組む子どもたち

3 赤十字奉仕団

地域社会における赤十字運動を推進していくため、赤十字奉仕団の育成と技術の向上に努める。

(1) 赤十字奉仕団の登録状況

区 分	団 数	団員数
地 域 奉 仕 団	37 団	3,811 名 (男性 587 名、女性 3,224 名)
特 殊 奉 仕 団	5 団	236 名 (男性 147 名、女性 89 名)
青 年 奉 仕 団	2 団	177 名 (男性 22 名、女性 155 名)
合 計	44 団	4,224 名 (男性 756 名、女性 3,468 名)

※上記には、休止中の奉仕団(地域1団、特殊1団)は含まない。

(2) 赤十字奉仕団指導講師の委嘱

赤十字奉仕団活動の活性化と支部事業の推進を図ることを目的に、奉仕活動に精通し、ボランティア活動に対する様々な指導・助言等の役割を担う赤十字奉仕団指導講師を4名委嘱し、活動いただいている。

[指導講師の委嘱状況]

村山地区	最上地区	置賜地区	庄内地区	合 計
1名	0名	3名	0名	4名

(3) 本社・支部主催の各種研修・会議の開催状況

新型コロナウイルスの感染拡大を踏まえ、開催形態や会場の変更、時間の短縮などの感染防止対策を十分に講じたうえで、奉仕団活動の推進を図るため、各種研修・会議を開催している。

No	研修・行事名	期 日	場 所	参加者
1	令和4年度赤十字奉仕団担当者初任者研修会(Web)	4月15日(金)	日赤県支部(山形市)	支部職員 2 名
2	赤十字奉仕団山形県支部委員会	5月25日(水)	山形県総合運動公園(天童市)	奉仕団委員長 8 名 支部職員 3 名 合 計 11 名
3	赤十字奉仕団委員長会議	5月25日(水)	山形県総合運動公園(天童市)	奉仕団委員長 29 名 支部職員 5 名 合 計 34 名
4	赤十字奉仕団中央委員会(Web)	5月30日(月)～31日(火)	日赤県支部(山形市)	県支部委員会委員長 1 名 支部職員 1 名 合 計 2 名
5	支部赤十字奉仕団担当者会議(Web)	7月6日(水)	日赤県支部(山形市)	支部職員 1 名
6	青年赤十字奉仕団第1ブロック協議会(Web)	8月20日(土)	日赤県支部(山形市)	青年赤十字奉仕団 6 名 支部職員 4 名 合 計 10 名
7	令和4年度 赤十字ボランティア・リーダーシップ研修	10月14日(金)	日赤県支部(山形市)	奉仕団員 11 名 支部職員 4 名 合 計 15 名
8	全国青少年赤十字賛助奉仕団協議会第1ブロック会議(Web)	10月20日(木)	日赤県支部(山形市)	県青少年赤十字賛助奉仕団委員長 1 名 奉仕団員 2 名 支部職員 2 名 合 計 5 名

(4) 東日本大震災復興支援事業の実施

赤十字奉仕団が計画・実施した東日本大震災復興支援事業に、支部として事業実施を支援した。

行事名	期 日	場 所	参加者
令和4年度 東日本大震災復興支援事業	10月10日(月) ～11日(火)	気仙沼市大沢 地区大沢集会所 (宮城県気仙沼市)	地域住民 50 名 奉仕団員 10 名 支部職員 4 名 合 計 64 名



地域住民へ芋煮のふるまい



参加者全員で歌をうたう



地域住民との非常食の炊き出し体験



奉仕団と地域住民の記念撮影

(5) 地域赤十字奉仕団委員長との意見交換

地域における赤十字事業の推進者である地域赤十字奉仕団委員長宅を訪問し、コロナ禍における各団の抱える悩みや県支部へ奉仕団事業に関する意見をいただき、令和5年度事業の検討材料とした。

No.	期 日	場 所	訪問者
1	12月13日(火)	最上方面 (新庄市、金山町、舟形町、大蔵村、 鮭川村、戸沢村)	支部職員 1 名
2	12月13日(火)	庄内方面 (鶴岡市、酒田市、三川町、遊佐町)	支部職員 1 名
3	12月16日(金)	村山方面 (山形市、村山市、天童市、東根市、 尾花沢市、河北町)	支部職員 1 名
4	12月16日(金)	置賜方面 (米沢市、長井市、南陽市、高畠町、 川西町、小国町、白鷹町、飯豊町)	支部職員 1 名

(6) 奉仕団主催の研修・行事等開催状況

各団では、団員育成や地域における赤十字事業の普及のため、新型コロナウイルス感染症の感染防止対策を十分に講じたうえで各種研修・行事等を開催している。

No	研修名	期 日	場 所	参加者
1	山形県青少年赤十字 賛助奉仕団 1回役員会	4月4日(月)	日赤県支部 (山形市)	県青少年赤十字賛助奉仕団員 10 名 支部職員 1 名 合 計 11 名
2	山形県青少年赤十字 賛助奉仕団 2回役員会	5月30日(月)	日赤県支部 (山形市)	県青少年赤十字賛助奉仕団員 8 名 支部職員 2 名 合 計 10 名
3	山形県青少年赤十字 賛助奉仕団 3回役員会	7月24日(日)	霞城セントラル (山形市)	県青少年赤十字賛助奉仕団員 10 名 支部職員 1 名 合 計 11 名
4	防災セミナー【再掲】 (南陽市赤十字奉仕団)	6月3日(金) 7月5日(火) 9月1日(木)	南陽市赤湯公民館 南陽市金山公民館 ワトワセンター南陽 (南陽市)	奉仕団員他 延べ 62 名 支部職員 延べ 5 名 合 計 67 名
5	防災セミナー【再掲】 (東根市蟹沢赤十字奉仕団)	10月30日(日)	東根市西部 防災センター (東根市)	東根市赤十字奉仕団他 45 名 支部職員 1 名 合 計 46 名
6	山形県青少年赤十字 賛助奉仕団 4回役員会	11月6日(日)	霞城セントラル (山形市)	県青少年赤十字賛助奉仕団員 7 名
7	山形県青少年赤十字 賛助奉仕団 研修会	12月4日(日)	霞城セントラル (山形市)	県青少年赤十字賛助奉仕団員他 10 名 支部職員 1 名 合 計 11 名
8	防災セミナー【再掲】 (山形市第五地区赤十字 奉仕団)	12月7日(水)	山形市東部公民館 (山形市)	山形市第五地区赤十字奉仕団他 25 名 支部職員 2 名 合 計 27 名

(7) 奉仕団主催の会合・研修の開催に合わせた赤十字ボランティア基礎研修会の開催【新規】

赤十字奉仕団に所属している団員の方々に対し、赤十字の組織、役割、赤十字ボランティアとして活動するための必要な知識等についてご理解いただき、赤十字ボランティアとしての意識の高揚を図ることを目的として各団主催の会合・研修開催時に合わせて、基礎研修会を開催した。

No	研修名	期 日	場 所	参加者
1	赤十字ボランティア基礎研修 (鮭川村赤十字奉仕団)	4月15日(金)	鮭川村農村交流 センター2階 (鮭川村)	鮭川村赤十字奉仕団員 25 名 鮭川村分区職員 2 名 支部職員 2 名 合 計 29 名
2	赤十字ボランティア基礎研修 (白鷹町こぶし会赤十字 奉仕団)	5月11日(水)	白鷹町荒砥地区 コミュニティセンター (白鷹町)	こぶし会赤十字奉仕団員 20 名 救急法指導員 2 名 合 計 22 名
3	赤十字ボランティア基礎研修 (白鷹町わかあゆ会赤十 字奉仕団)	8月7日(日)	白鷹町荒砥地区 コミュニティセンター (白鷹町)	わかあゆ会赤十字奉仕団員 13 名 支部職員 1 名 合 計 14 名
4	赤十字ボランティア基礎研修 (村山市戸沢赤十字奉仕団)	10月7日(金)	村山市戸沢地域 市民センター (村山市)	村山市戸沢赤十字奉仕団員 23 名 支部職員 1 名 合 計 24 名

(8) 令和4年8月3日からの大雨災害での奉仕団活動(再掲)

被災した地域のニーズに合わせて、赤十字奉仕団がボランティア活動を実施した。

No.	奉仕団名	期 間	活動内容	参加者
1	飯豊町赤十字奉仕団	8月6日(土)～10日(水)	被災住宅の片づけ	団員 30 名
		8月17日(水)～21日(日)	ボランティアセンター運営支援 (ボランティアへ水、タオル等の 差入れ)	団員 28 名
		8月26日(金)～27日(土) 9月2日(金)～3日(土)		
2	高畠町赤十字奉仕団	8月17日(水)～21日(日)	ボランティアセンター運営支援 (受付業務)	団員 18 名
		8月26日(金)～27日(土) 9月2日(金)～3日(土)		
		8月26日(金)～27日(土)	・被災住宅の片づけ ・飯豊町社会福祉協議会に マスク入れ等の贈呈	団員 6 名

(9) 活動助成金の交付状況

各団のボランティア活動を推進するため、申請に応じて1団につき上限を11万円(モデル赤十字奉仕団は18万円)として活動助成金を交付している。

区 分	申請団数	交付額
地 域 奉 仕 団	27 団	1,920,000 円
特 殊 奉 仕 団	5 団	400,000 円
青 年 奉 仕 団	0 団	0 円
合 計	32 団	2,320,000 円

(10) モデル奉仕団の指定

奉仕団活動の強化推進を図るため、管内の地域奉仕団の中核となるようなモデル赤十字奉仕団を指定した。

指定年度	奉仕団名	活動テーマ
令和3年度～令和5年度	高畠町赤十字奉仕団	地域における奉仕活動

4 青少年赤十字

次世代を担う児童・生徒が、赤十字を正しく理解し、世界の平和と人類の福祉に貢献できる青少年の育成に努める。

(1) 青少年赤十字加盟登録状況

地 区	校種別 区 分	幼稚園 保育園	小学校 ※義務教育 学校を含む	中学校	高等学校	特別支援 学 校	合 計
村 山	園・学校数	155 園	103 校	44 校	25 校	11 校	338 校
	加盟校数	10 園	34 校	28 校	12 校	1 校	85 校
	加盟率	6.5 %	33.0 %	63.6 %	48.0 %	9.1 %	25.1 %
	メンバー数	1,143 名	8,766 名	7,437 名	1,184 名	34 名	18,564 名
最 上	園・学校数	23 園	16 校	9 校	7 校	1 校	56 校
	加盟校数	2 園	16 校	9 校	0 校	0 校	27 校
	加盟率	8.7 %	100.0 %	100.0 %	0.0 %	0.0 %	48.2 %
	メンバー数	245 名	3,493 名	1,295 名	0 名	0 名	5,033 名
置 賜	園・学校数	56 園	51 校	18 校	14 校	4 校	143 校
	加盟校数	5 園	25 校	6 校	7 校	0 校	43 校
	加盟率	8.9 %	49.0 %	33.3 %	50.0 %	0.0 %	30.1 %
	メンバー数	404 名	4,604 名	1,763 名	218 名	0 名	6,989 名
庄 内	園・学校数	96 園	60 校	22 校	16 校	3 校	197 校
	加盟校数	2 園	11 校	1 校	6 校	1 校	21 校
	加盟率	2.1 %	18.3 %	4.5 %	37.5 %	33.3 %	10.7 %
	メンバー数	214 名	2,392 名	379 名	645 名	46 名	3,676 名
合 計	園・学校数	330 園	230 校	93 校	62 校	19 校	734 校
	加盟校数	19 園	86 校	44 校	25 校	2 校	176 校
	加盟率	5.8 %	37.4 %	47.3 %	40.3 %	10.5 %	24.0 %
	メンバー数	2,006 名	19,255 名	10,874 名	2,047 名	80 名	34,262 名

<令和4年度新規加盟校(園)>

○社会福祉法人 チトセ会 こども園ちとせ

○社会福祉法人 チトセ会 こども園ののはな

○上山市立南小学校

○上山市立中川小学校

(2) 青少年赤十字指導講師の委嘱

青少年赤十字活動の充実及び普及拡大並びに広く赤十字事業を推進するため、青少年赤十字加盟校の元校長を青少年赤十字指導講師として委嘱している。

〔指導講師の委嘱状況〕

村山地区	最上地区	置賜地区	庄内地区	合 計
1名	0名	2名	1名	4名

(3) 青少年赤十字指導講師及び支部青少年赤十字推進員の活動状況

青少年赤十字未加盟校への加盟勧奨、青少年赤十字加盟校への指導・助言、県及び市町村教育委員会との連絡調整などを行っている。

〔訪問回数〕

青少年赤十字指導講師	支部青少年赤十字推進員	合 計
120回	187回	307回

(4) 本社主催各種会議・研修会への指導者の派遣

青少年赤十字への理解と認識を高め、青少年赤十字指導者の養成を図るため、新型コロナウイルス感染症の感染防止対策を十分に講じたうえで、指導者を派遣している。

No	会議・研修会名	期 日	場 所	派遣者
1	令和4年度支部青少年赤十字担当者説明会(Web)	4月8日(金)	日赤県支部(山形市)	支部職員 2名
2	第1ブロック支部青少年赤十字担当者ミーティング(Web)	4月25日(月)	日赤県支部(山形市)	支部職員 2名
3	青少年赤十字全国指導者協議会総会・研修会(Web)	6月29日(水)	日赤県支部(山形市)	県指導者協議会副会長 (山形市立南沼原小学校長) 1名
4	第1ブロック支部青少年赤十字指導者研究会(Web)	1月13日(金)	日赤県支部(山形市)	指導講師 1名 支部職員 2名 合 計 3名

(5) 県支部主催各種会議・研修会等の開催

新型コロナウイルス感染症の感染防止対策を十分に講じたうえで、青少年赤十字活動の活性化を図るため、各種会議・研修会等を開催している。

No	会議・研修会名	期 日	場 所	参加者
1	第1回青少年赤十字指導講師打合せ会	5月30日(月)	日赤県支部(山形市)	指導講師 2名 支部職員 4名 合 計 6名
2	第2回青少年赤十字指導講師打合せ会	11月15日(火)	日赤県支部(山形市)	指導講師 3名 支部職員 4名 合 計 7名
3	青少年赤十字山形県指導者協議会理事・幹事会及び青少年赤十字研究発表会(Web)	11月15日(火)	各加盟校、指導講師自宅及び日赤県支部(山形市)	県教委義務教育課長補佐 1名 指導者協議会理事・幹事 14名 R2・R3研究推進校指導者 3名 村山教育事務所指導主事 1名 指導講師 2名 賛助奉仕団 3名 支部職員 5名 合 計 29名

(6) 防災教育出前授業の実施

新型コロナウイルス感染症の感染防止対策を十分に講じたうえで、青少年赤十字防災教育プログラムを活用し、防災・減災につながる出前授業を実施している。

No	学校・団体名	期 日	場 所	参加者
1	日本大学山形高等学校	7月14日(木)	日本大学山形高等学校(山形市)	1学年生徒及び教職員 約 320名 支部職員 1名 計 321名
2	中山町立中山中学校	7月21日(木)	中山町立中山中学校(中山町)	教職員 15名 支部職員 1名 計 16名
3	山形市教育委員会	9月20日(火)	山形市霞城公民館(山形市)	教職員 35名 支部職員 3名 計 38名
4	中山町立中山中学校	9月21日(水)	中山町立中山中学校(中山町)	教職員 15名 支部職員 2名 計 17名

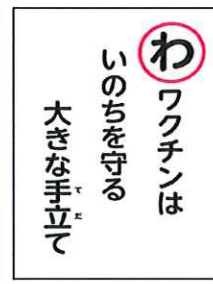
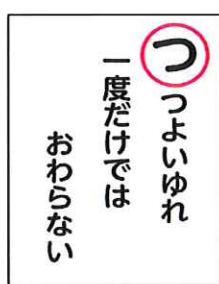
No	学校・団体名	期 日	場 所	参加者
5	山形市立 東沢小学校	11月25日(金)	日赤県支部 (山形市)	2学年児童及び教職員 11 名 支部職員 2 名 計 13 名
6	中山町立 中山中学校	11月28日(月)	中山町立中山中学校 (中山町)	2学年生徒及び教職員 約 100 名 支部職員 1 名 計 101 名
7	中山町立 中山中学校	1月16日(月)	中山町立中山中学校 (中山町)	教職員 15 名 支部職員 1 名 計 16 名
受講者数合計				522 名



防災教育の座学や災害救護活動用機材等の紹介

(7) 青少年赤十字防災かるた(山形県版)の作成【新規】

令和4年度に青少年赤十字が創設100周年を迎えたのを機に、記念事業として、児童生徒の防災意識及び青少年赤十字活動への参加意識の向上を目的に、青少年赤十字加盟校及び青少年赤十字賛助奉仕団から提供された絵札や読み札を使用し、山形県版の青少年赤十字防災かるたを作成した。



かるたの読み札と絵札のデザイン
(学校等での防災教室や加盟勧奨、支部広報イベントで活用)

(8) 児童・生徒、メンバーの育成

① 青少年赤十字リーダーシップ研修の実施

青少年赤十字活動におけるリーダーを養成するためのリーダーシップ研修については、コロナ禍の状況から、昨年度に引き続き宿泊研修は行わず、半日での開催やWeb開催等に変更し、感染防止対策を十分に講じたうえで実施した。

No	研修会名	期 日	場 所	参加者
1	高等学校青少年赤十字 リーダーシップ研修(Web)	6月5日(日)	各加盟校 及び 日赤県支部 (山形市)	青少年赤十字高校生メンバー 43 名 青少年赤十字加盟高等学校指導者 3 名 指導講師 2 名 青少年赤十字賛助奉仕団 1 名 支部・センター職員 2 名 合 計 51 名
2	小・中学校青少年赤十字 リーダーシップ研修	8月1日(月)	新庄市民 プラザ (新庄市)	青少年赤十字小・中学生メンバー 13 名 青少年赤十字加盟小・中学校指導者 4 名 指導講師 2 名 青少年赤十字賛助奉仕団 2 名 支部職員 2 名 合 計 23 名

No	研修会名	期 日	場 所	参加者
3	第2回小・中学校青少年 赤十字リーダーシップ研修 (Web)	11月26日(土)	各加盟校 及び 日赤県支部 (山形市)	青少年赤十字中学生メンバー 27 名 青少年赤十字加盟中学校指導者 2 名 指導講師 1 名 青少年赤十字賛助奉仕団 1 名 支部職員 2 名 合 計 33 名



高等学校リーダーシップ研修(Web開催)



小・中学校リーダーシップ研修(半日研修)

② 山形県高等学校青少年赤十字連絡協議会

コロナ禍の状況を考慮しながら、参集またはオンラインでの総会や役員会等の活動を行った。

総会においては、日赤本社で制作した新型コロナウイルス感染症を正しく知るための教材「新型コロナウイルスの3つの顔を知ろう！」に基づく活動方針を昨年度に引き続き維持しつつ、令和4年度の具体的な活動の方向性が提案され、承認された。

<活動方針>

- ・「正しい知識に基づき、日常において徹底して感染防止に取り組みます。」
- ・「自分の意志と他者への思いやりを持ち、偏見や差別には与しません。」

No	会議・研修会名	期 日	場 所	参加者
1	山形県高等学校青少年 赤十字連絡協議会 第1回役員会(Web)	5月20日(金)	各加盟校 及び 日赤県支部 (山形市)	県高等学校連絡協議会役員 16 名 支部職員 2 名 合 計 18 名
2	山形県高等学校青少年 赤十字連絡協議会 第2回役員会	6月4日(土)	日赤県支部 (山形市)	県高等学校連絡協議会役員 17 名 支部職員 2 名 合 計 19 名
3	山形県高等学校青少年 赤十字連絡協議会 第3回役員会(Web)	7月26日(火)	各加盟校 及び 日赤県支部 (山形市)	県高等学校連絡協議会役員 20 名 県高等学校連絡協議会新役員立候補者 12 名 支部職員 2 名 合 計 34 名
4	山形県高等学校青少年 赤十字連絡協議会総会 及び研究集会(Web)	8月9日(火)	各加盟校 及び 日赤県支部 (山形市)	青少年赤十字高校生メンバー 82 名 青少年赤十字加盟高等学校指導者 5 名 県指導者協議会会長 1 名 指導講師 2 名 青少年赤十字賛助奉仕団 2 名 支部職員 3 名 合 計 95 名
5	山形県高等学校青少年 赤十字連絡協議会 第4回役員会(Web)	9月10日(土)	各加盟校 及び 日赤県支部 (山形市)	県高等学校連絡協議会役員 17 名 支部職員 2 名 合 計 19 名
6	山形県高等学校青少年 赤十字連絡協議会 第5回役員会(Web)	11月17日(木)	各加盟校 及び 日赤県支部 (山形市)	県高等学校連絡協議会役員 16 名 支部職員 2 名 合 計 18 名

No	会議・研修会名	期 日	場 所	参加者
7	山形県高等学校青少年 赤十字連絡協議会 第6回役員会(Web)	12月16日(金)	各加盟校 及び 日赤県支部 (山形市)	県高等学校連絡協議会役員 10名 支部職員 2名 合 計 12名



Web開催した連絡協議会総会

(9) 本社及び第1ブロック主催研修会等への青少年赤十字メンバーの派遣

青少年赤十字活動におけるリーダーを養成すること等を目的に、本社及び第1ブロック主催の研修会等に新型コロナウイルス感染症の感染防止対策を十分に講じ、青少年赤十字メンバーを派遣した。

No	会議・研修会名	期 日	場 所	派遣者
1	第1ブロック支部 高等学校 青少年赤十字交流会	10月1日(土)	自宅及び 日赤県支部 (山形市等)	青少年赤十字高校生メンバー 6名 支部職員 2名 合 計 8名
2	青少年赤十字 創設100周年記念 令和4年度国際交流事業 (第1部)	10月2日(日)	日赤県支部 (山形市)	青少年赤十字高校生メンバー 2名 支部職員 2名 合 計 4名
3	青少年赤十字 創設100周年記念 令和4年度国際交流事業 (第2部)	11月5日(土) ～6日(日)	日赤県支部 (山形市)	青少年赤十字高校生メンバー 3名 支部職員 2名 合 計 5名

(10) 研究推進校の委嘱

活発な青少年赤十字活動を推進するため、研究推進校として7校を委嘱し、1校につき7万円の助成金を交付した。

各校では、コロナ禍を踏まえて感染防止対策を十分に講じたうえで、テーマに沿った活動に取り組んでいる。

No	学校名	テーマ	委嘱年度
1	山形市立第五小学校	「挑み、楽しみ、つながりながら、自ら学び続ける子どもの育成」 ～学びのサイクルを生み出す、体育科と各教科・領域の学びを通して～	令和3年度 ～令和4年度
2	新庄市立新庄中学校	Pride&Respect ・自他の命を大切にし人と関わるための資質を身に着けた生徒を目指して ・地域を見つめ地域と関わり地域のために考え働く生徒を目指して	
3	山形県立山形西高等学校	地域に寄り添う西高生を目指して ～JRC活動のつながりをはかる～	
4	学校法人仙英学園 認定こども園 ゆりかご幼稚園	自分の命、みんなの命を大切にする子ども ～気付く目、思いやりの心、 考えて行動する力の育成～	令和4年度 ～令和5年度
5	天童市立干布小学校	「自分で考え、動ける子供」の育成	
6	長井市立長井北中学校	地域への貢献活動の推進 ～主体的に考え、行動する生徒を目指して～	
7	酒田市立第六中学校	相手を思いやり、 社会で生きる力を伸ばす生徒をめざして ～校是「六華の心」と 青少年赤十字の理念を活動に～	
助成金交付合計額		490,000円(7校×70,000円)	

5 国際活動

国際赤十字の一員として、開発途上国における健康・安全の確保や、海外の災害や紛争の被災者支援など、海外の救援・支援ニーズにあわせた人道的活動を展開する。

(1) 第1ブロック支部合同国際活動

本社が直接実施している海外での救援及び開発協力活動のうち、次の活動について、北海道・東北ブロック支部共同事業として資金の支援を行っている。

No	事業名	支援先	金額
1	救急法普及支援事業	ラオス	377,000 円
2	青少年赤十字海外支援事業	バヌアツ	378,000 円
合計			755,000 円

(2) ベトナム教育支援事業

県高等学校青少年赤十字連絡協議会が中心となり、書き損じはがき回収活動による資金を原資として、ベトナムの貧困地域の子どもたちへの学用品セットの贈呈及び県内青少年赤十字メンバーの現地への派遣を3月に実施することとしていた。

しかし、新型コロナウイルスの影響により青少年赤十字メンバーの海外派遣が困難であることから、学用品セットの送付のみに変更し、現地赤十字社と連絡調整を行いながら3月に送付する。

(3) 海外救援事業のための募金活動

① 海外救援金の受付

海外における自然災害の被災者や紛争犠牲者等を支援するため、海外救援金を受け付けている。

No	救援金名	件数	金額
1	中東人道危機救援金	0 件 (85 件)	0 円 (416,174 円)
2	バングラデシュ南部避難民救援金	0 件 (112 件)	0 円 (124,852 円)
3	アフガニスタン人道危機救援金	0 件 (111 件)	0 円 (128,153 円)
4	ウクライナ人道危機救援金	281 件 (597 件)	19,115,817 円 (29,843,670 円)
5	2022年アフガニスタン地震救援金	122 件 (122 件)	161,949 円 (161,949 円)
6	2022年パキスタン洪水救援金	65 件 (65 件)	79,728 円 (79,728 円)
7	海外救援金(無指定)	0 件	0 円
小 計		468 件 (1,092 件)	19,357,494 円 (30,754,526 円)
8	令和4年度NHK海外たすけあいキャンペーン寄付金	223 件	839,583 円
合 計		691 件 (1,315 件)	20,197,077 円 (31,594,109 円)

※()内は、受付開始からの累計受付件数及び受付額

② NHK海外たすけあいキャンペーンの実施

12月1日～25日まで実施した同キャンペーンの一環として、赤十字奉仕団員及び青少年赤十字メンバーから協力を得て、新型コロナウイルス感染防止対策を十分に講じ街頭募金活動を実施した。

支部主体で実施した商業施設4ヶ所のほか、昨年度に引き続き、地域奉仕団主体での街頭募金活動を昨年度から1ヶ所増の県内9か所で実施し、多くの県民の方々からご協力をいただいた。

期 日	場 所	参 加 者
12月4日(日)	県内スーパーマーケット 及び公共施設等 計13ヶ所 (支部主体4ヶ所、奉仕団主体9ヶ所)	赤十字奉仕団 87 名
		青少年赤十字中・高校生メンバー 31 名
		支部職員 10 名
		合計 128 名



県内各地で多くの県民の方々から多くのご協力をいただいた

6 財政基盤の強化

安定的な財政基盤を構築するため、地区区分及び関係機関の理解と協力を得ながら、活動財源である会費及び寄付金の募集を行うとともに、赤十字事業を推進するために、企業や団体と双方向での有益な関係作りを図る。

(1) 社資(会費及び寄付金)収入状況

令和2年から続く新型コロナウイルス感染症の感染拡大による社会経済への影響を踏まえて、地区区分における社資募集については、コロナ禍に即して依頼方法の変更や募集開始時期を例年よりも遅らせる等の対応を取りながら実施している。

支部における社資募集については、法人社資の増強方策として、昨年に引き続き個別訪問による協力依頼を県内265社(令和3年度:249社)を対象に実施するなど、財政基盤の安定強化に取り組んでいる。

項 目		予算額	収入額	収入率
地区区分取扱社資	一般社資	190,158,000 円	180,518,279 円	94.9 %
	法人社資	1,669,000 円	1,135,021 円	68.0 %
	計	191,827,000 円	181,653,300 円	94.7 %
支部取扱社資	一般社資	5,014,000 円	5,204,162 円	103.8 %
	法人社資	24,039,000 円	25,228,610 円	104.9 %
	計	29,053,000 円	30,432,772 円	104.7 %
合 計		220,880,000 円	212,086,072 円	96.0 %

(2) 赤十字寄付金付自動販売機の設置の普及

企業や団体、地区区分に対して、売上の一部が赤十字への寄付金となる自動販売機の設置について広く普及に努めた。

区 分	設置先	設置台数	寄付額
企業・団体	12 ヶ所	14 台	200,766 円
地区区分	2 ヶ所	2 台	1,747 円
支 部	1 ヶ所	1 台	16,623 円
合 計	15 ヶ所	17 台	219,136 円

県庁1階北側出入口前
設置自動販売機



(3) 遺贈・相続財産寄付の受入体制の強化

地区区分及び県内金融機関、専門機関から協力いただき、遺贈・相続財産寄付パンフレットを作成・設置し、受入体制の強化を図った。

(4) 本社主催等の各種研修・行事等の開催

社業振興の推進を図るため、新型コロナウイルス感染症の感染防止対策を十分に講じたうえで、各種会議・研修会を開催したほか、職員を派遣した。

No	行事名	期 日	場 所	派遣者
1	第1回地区分区幹事会議	4月18日(月)	山形県 自治会館 (山形市)	地区分区幹事 他 39 名 支部・センター職員 11 名 合 計 50 名
2	地区分区事務担当者会議	4月20日(水)	山形県 自治会館 (山形市)	地区分区事務委員 38 名 支部職員 10 名 合 計 48 名
3	全国赤十字大会	5月19日(木)	東京都 明治神宮会館 (東京都)	理事・代議員・有功会員 5 名 支部職員 2 名 合 計 7 名
4	全国支部振興業務担当課長 会議(Web)	9月7日(水)	日赤県支部 (山形市)	支部職員 1 名
5	日本赤十字社ファンドレイ ジングセミナー2022(Web)	9月26日(月)	日赤県支部 (山形市)	支部職員 1 名
6	第2回地区分区幹事会議	11月17日(木)	山形県 自治会館 (山形市)	地区分区幹事 他 34 名 支部・センター職員 9 名 合 計 43 名

(5) 山形県赤十字大会の延期開催への対応

令和4年に山形県支部が創設135周年を迎えることから、赤十字事業の推進に貢献された方々の顕彰を行い、県民及び赤十字関係者との連携を一層強化し会員の増強を図るとともに、赤十字思想の普及及び事業活動の推進に資するため、昨年7月21日に「令和4年支部創設135周年記念山形県赤十字大会」を開催することとしていた。

大会関連行事を円滑に実施するため、県、市町村等関係機関及び赤十字関係団体と連携しながら、行程の確認、会場の決定や出席者の調整等の事前準備作業を進めていたが、大会開催2日前の7月19日(ご来県前日)に名誉副総裁 高円宮妃久子殿下のご息女が新型コロナに感染したためお成りが取りやめとなり、令和5年に開催を延期することとした。

(6) 赤十字功労者に対する顕彰

赤十字事業の推進に多大な功労のあった方々に対し、その功績を称え、顕彰を行っている。

① 令和4年度日本赤十字社表彰伝達式の実施

令和4年12月15日に山形グランドホテルを会場に表彰伝達式を開催し、赤十字事業に功労のあった個人・法人・団体に対し、吉村支部長より表彰品を伝達した。

表彰区分	伝達数
厚生労働大臣感謝状	2 件
日本赤十字社社長感謝状	11 件
金色有功章	6 件
銀色有功章	3 件



吉村支部長と受章者の皆様

② 社資功労及び業務功労功労者に対する表彰状況

ア 社資功労

※ 日本赤十字社有功章等贈与贈与規則に基づく

功労区分 \ 表彰区分	日本赤十字社社長感謝状	金色有功章	銀色有功章	支部長感謝状	支部長表彰状	合 計
社資(個人)	2	2	4	0	5	13 件
社資(法人)	14	12	4	0	0	30 件
合 計	16	14	8	0	5	43 件

イ 業務功労

※ 日本赤十字社有功章等贈与贈与規則に基づく

功労区分 \ 表彰区分	日本赤十字社社長感謝状	金色有功章	銀色有功章	金枠支部長感謝状	銀枠支部長感謝状	合 計
役 職	0	0	0	0	0	0 件
協賛委員	0	3	14	25	56	98 件
奉仕者	0	0	2	0	0	2 件
献血者		45	58			103 件
青少年赤十字指導者	0	1	0	0	0	1 件
奉仕団	0	1	0	0	0	1 件
青少年赤十字加盟校	9	1	4	2	3	19 件
献血団体	0	3	4	1	2	10 件
献血推進団体	0	0	1	0	0	1 件
合 計	9	54	83	28	61	235 件

表彰制度について

赤十字活動資金のご協力に対しては、日本赤十字社や国からの表彰制度がございます。

■ 国の表彰

紺綬褒章(個人500万円以上、法人1,000万円以上)

厚生労働大臣感謝状(個人100万円以上、法人300万円以上)

※一時または同一年度の累計

■ 日本赤十字社社長感謝状

金色有功章受章後、
50万円以上納められた都度

■ 金色有功章 50万円以上を納められた方

(個人)



金色有功章証

徽章

男章

女章

セト門標

(法人)



金色有功章楯

徽章

セト門標

■ 銀色有功章 20万円以上を納められた方

(個人・法人)



銀色有功章楯

徽章

セト門標

■ 特別社員 会費2,000円×10年または一括20,000円を納められた方



特別社員章

セト門標

(7) 赤十字会員等に対する弔意

長年にわたり、赤十字を支えていただいた赤十字会員等がご逝去された際に、弔詞及びロウソクを奉呈し、弔意を表している。

種 類	弔 詞	無地ロウソク(2本組)	絵ロウソク(2本組)
地区区分への送付数	7,407部	2,303セット	5,497セット

7 広報活動

より多くの人々から、赤十字事業を正しく理解いただくため、周知と普及を図る。

(1) 広報誌「赤十字やまがた」の発行

5月の赤十字運動月間に合わせ、県民に広く赤十字運動に参加いただくため、全戸配付用広報誌を37万2千部発行し、地区区分を通じて配付した。

(2) 赤十字NEWSによる情報発信

「赤十字NEWS」を赤十字関係者に毎月送付するとともに(700部/月)、会員向け情報誌「Cross Com-BOOK」を希望する赤十字会員に対し年2回送付し、情報発信に努めている。

(3) 支部ホームページ及びソーシャルメディアによる情報発信

災害救護をはじめとする支部の取り組みや県内赤十字関係者の活動について、支部ホームページに加えて、若年層を中心としたソーシャルメディア利用者にも情報発信していくことを目的に支部専用ソーシャルメディアアカウントから、積極的に情報を発信している。

[ソーシャルメディアアカウント]

区 分	名前	ユーザーネーム	QRコード
Twitter	日本赤十字社山形県支部	@nissekiyamagata	
Instagram		nisseki_yamagata	

(4) メディアを活用した広報

赤十字事業の周知と普及を図るため、県内各報道機関より協力をいただき、広報活動を実施している。

① テレビ、ラジオによる広報

5月の赤十字運動月間及び年間を通した赤十字活動広報用CM(テレビ、ラジオ)を作成し、報道機関4社から放映にご協力いただき、県民への赤十字活動への周知を図っている。

② 新聞広告による広報

広く赤十字事業にご理解をいただくため、5月の赤十字運動月間に合わせて、支部事業の紹介及び赤十字会員への加入促進に努めた。

また、9月1日の「防災の日」に向けて、8月30日に赤十字の防災・減災にかかる取り組みを紹介した。

(5) レッドライトアッププロジェクトの実施

5月の赤十字運動月間に、赤十字を広く国民に周知することを目的に全国各地の赤十字施設や歴史的建造物を赤十字のシンボルカラーである赤色に照らす「レッドライトアッププロジェクト」について、本県では上山城（上市市）及び常安寺五重塔（天童市）を会場に実施した。

期 間	場 所
5月6日（金）～8日（日）	上山城（上市市）
	常安寺五重塔（天童市）【新規】



常安寺五重塔の様子

(6) 赤十字フェスタの実施

県民から広く赤十字事業にご理解とご協力をいただくため、赤十字活動を実際に見て、触れて体験いただく赤十字フェスタを県内商業施設に協力いただき実施した他、他団体のイベントに赤十字ブースを出展した。

No	主催者・イベント名	期 日	場 所	参加者
1	イオンモール三川 「はたらくるま展」 【再掲】	6月12日（日）	イオンモール三川 （三川町）	来場者 500 名 赤十字奉仕団員 3 名 支部・血液センター職員 10 名 合 計 513 名
2	高島町赤十字奉仕団 「2022赤十字フェスタ in たかはた」 【再掲】	9月23日（金）	糠野目生涯学習館 （高島町）	来場者 200 名 赤十字奉仕団員 20 名 救急法等指導員 1 名 支部・センター職員 8 名 合 計 229 名
3	日赤県支部 「赤十字フェスタ in イオンモール天童」 【新規・再掲】	9月23日（金）	イオンモール天童 （天童市）	来場者 150 名 赤十字奉仕団員 3 名 救急法等指導員 2 名 支部・センター職員 9 名 合 計 164 名



非常炊き出しの方法を学ぶ来場者



親子で心肺蘇生を体験

(7) 赤十字広報資材(赤十字広報パック)貸出事業の実施

県民に広く赤十字事業へのご理解とご協力をいただくため、行事・イベント等で活用いただくための広報資材(赤十字事業紹介用パネル、救援物資サンプル等)を貸し出し、赤十字活動のPRに努めている。

No	活用行事名	期 間	貸出先
1	防災×福祉×男女共同参画セミナー	6月4日(土)	日赤高畠町分区

(8) 市町村主催イベントへの赤十字PRブースの出展

県民に広く赤十字事業へのご理解とご協力をいただくため、市町村主催のイベントに赤十字のPRブースを出展し、赤十字活動のPRに努めている。

No	活用行事名	期 間	貸出先
1	健康づくり強調月間	10月1日(土)～10月31日(月)	日赤鶴岡市地区
2	寒河江市福祉と健康フェア2022	10月24日(月)～10月28日(金)	日赤寒河江市地区

8 血液事業

県民の健康と生命を守るため、県、市町村及び関係団体と連携しながら、献血推進啓発活動を行う。

新型コロナウイルス感染症の感染防止対策を十分に講じたうえで、多くの県民の皆様に献血にご協力いただき、前年度と比較し100.3%の実績となり、需要に応じた献血血液の確保に努めている。

[献血実績]

(単位:人)

	令和4年度			令和3年度			対前年比
	献 血 者 数			献 血 者 数			
	移動採血車	献血ルーム		移動採血車	献血ルーム		
全血献血	24,064	20,121	3,943	23,793	20,537	3,256	101.1%
成分献血	11,081	-	11,081	11,257	-	11,257	98.4%
合 計	35,145	20,121	15,024	35,050	20,537	14,513	100.3%

※血液事業の詳しい状況については、別途「令和4年度血液センター事業実施状況」をご参照ください。

令和4年度血液センター事業実施状況

1 血液製剤の供給実績

当センターでは、医療機関に安定的に血液製剤を供給するため、3日分の在庫を保有し、東北ブロック血液センターから1日に2回定時搬入をする体制をとっている。

供給実績については、心臓外科手術の増加により、赤血球製剤、血漿製剤、血小板製剤の使用がいずれも増加し、前年度比104.7%となっており、安定的に供給できた。

区分	令和4年度実績 (単位)	令和3年度実績 (単位)	対令和3年度比
赤血球製剤	43,852	41,904	104.6%
血漿製剤	13,068	12,190	107.2%
血小板製剤	49,395	47,495	104.0%
合 計	106,315	101,589	104.7%

※単位換算について

赤血球製剤：「200mL 献血由来」を1単位、「400mL 献血由来」を2単位として換算

血漿製剤：「200mL 献血由来」を1単位、「400mL 献血由来」を2単位、「成分献血由来」を4単位として換算

血小板製剤：1単位 20mL で換算

2 献血実績

新型コロナウイルス感染拡大の影響により、事業所での移動採血の中止があったものの、代替え献血会場を確保し、新型コロナウイルス感染対策を徹底したうえで、多くの県民の皆様が献血にご協力いただき、前年度比で100.3%の実績となった。

(1) 献血者数

(単位：人)

	令和4年度			令和3年度			対令和3年度比
	合計	移動 採血車	献血 ルーム	合計	移動 採血車	献血 ルーム	
全血献血	24,064	20,121	3,943	23,793	20,537	3,256	101.1%
200mL 献血	857	527	330	773	541	232	110.9%
400mL 献血	23,207	19,594	3,613	23,020	19,996	3,024	100.8%
成分献血	11,081	-	11,081	11,257	-	11,257	98.4%
血漿	7,235		7,235	7,521		7,521	96.2%
血小板	3,846		3,846	3,736		3,736	102.9%
合 計	35,145	20,121	15,024	35,050	20,537	14,513	100.3%

(2) 重点項目

医療機関からの需要及び輸血による安全性向上のため、400mL 献血の推進を図るとともに、輸血用血液を安定的に確保するため、移動採血の稼働効率化を図ることを重点項目としており、400mL 献血率は、目標値 97.6%に対し 96.4%、移動採血車 1 稼働あたりの献血者数は、目標値 45 人以上に対し 42 人となり、目標には届かなかった。

ア 400mL 献血率

目標値	全血献血者数	200mL 献血数	400mL 献血数	400mL 献血率
97.6%	24,064 人	857 人	23,207 人	96.4%

イ 移動採血車 1 稼働あたりの献血者数

目標値	献血者数	稼働数	1 稼働あたりの献血者数
45 人	20,121 人	474	42 人

(3) 定点献血等の実施状況

定点献血会場として、大型ショッピングセンター等で定期的な献血を実施したほか、陸上自衛隊神町駐屯地へ定期的に移動採血車を配車し、前年度比 100.9%の献血実績となった。

(単位：人)

会 場	実 施 日	令和4年度			令和3年度			対令和 3 年度比
		回数	献血者 総数	1稼働 あたり	回数	献血者 総数	1稼働 あたり	
イオン山形北店	年4回	3	157	52.3	3	156	52.0	100.6%
イオンモール山形南	年4回	2	97	48.5	2	63	31.5	154.0%
イオンモール天童	毎月第3日曜日	7	421	60.1	8	470	58.8	89.6%
イオン東根店	奇数月第1土曜日	5	284	56.8	5	269	53.8	105.6%
イオン米沢店	年 7 回	6	363	60.5	6	361	60.2	100.6%
こびあ鶴岡店	毎月第2土曜日	10	614	61.4	10	596	59.6	103.0%
イオンモール三川	毎月第4土曜日	10	566	56.6	10	569	56.9	99.5%
計		43	2,502	58.2	44	2,484	56.5	100.7%
陸上自衛隊神町駐屯地		1	67	67.0	2	62	31.0	108.1%
合計		44	2,569	58.4	46	2,546	55.3	100.9%

(4) 原料血漿の確保実績

血漿分画製剤の原料となる血漿は、安全性の確保並びに倫理的な見地から、その全てを国内の献血でまかなう方針が国から示されており、国内自給率 100%達成に向けて割り当てられた目標量を確保した。

令和 4 年 12 月末時点

原料血漿確保目標	確保実績	実績／目標量
63, 187L	65, 354L	103. 4%

※広域事業運営体制のため、青森・岩手・宮城・秋田・山形・福島 6 県分の合算の数値

3 献血の普及啓発

(1) 各種団体等との連携

ア ライオンズクラブ国際協会 3 3 2-E 地区献血推進研究会

実施日	実施会場	内 容
10 月 25 日 (火)	パレスグランデール (山形市)	・活動優秀クラブ表彰及び活動事例報告 ・各クラブ年間活動実施計画及び報告 ・献血アプリサービス「ラブラッド」の活用 ・「献血 1 万人運動」の更なる推進に関する協議 ・若年層献血者の増加に向けての協議

県内各ライオンズクラブでは「献血 1 万人運動」を目標の 1 つに掲げ、次の通り献血推進活動に積極的に協力いただいている。

- (ア) 県内商業施設における定点献血及び街頭献血での勧誘、記念品進呈
- (イ) 高等学校及び大学等、若年層献血者に対する記念品進呈
- (ウ) クラブ会員所属企業における献血及び記念品進呈
- (エ) 各ライオンズクラブ主催での献血実施
- (オ) 献血ルームでの献血協力

イ 献血セミナーの開催

県及び血液センターは、若年層の献血者確保を図るべく、将来の献血を担う高校生等に、血液や献血に対する正しい知識を学んでもらうことを目的に、献血セミナーを実施した。特に、高等学校においては、コロナ禍での対応として、校内放送やリモートでのセミナーで献血啓発に取り組んだ。

	高等学校	大学	その他	計	令和 3 年度
実施回数	50 回	21 回	16 回	87 回	62 回
参加人数	5, 409 人	992 人	684 人	7, 085 人	4, 298 人

【年齢別献血者数】

年代	計画数	令和4年度実績	構成比	達成率	令和3年度実績	対令和3年度比
10代	2,300	1,949	5.5%	84.7%	1,900	102.6%
20代	6,619	4,663	13.3%	70.4%	4,832	96.5%
30代	7,650	5,835	16.6%	76.3%	6,200	94.1%
計	16,569	12,447	35.4%	75.1%	12,932	96.2%
40代以上	23,601	22,698	64.6%	96.2%	22,118	102.6%
合計	40,170	35,145	—	87.5%	35,050	100.3%

ウ 学生ボランティアの育成

若年層の献血者を確保するため、同年代に対し献血の必要性を呼びかけてもらうことを目的に形成している県内の大学・短大・専門学校の学生を中心としたボランティア組織を拡充・活用し、学生献血推進ボランティアによる献血セミナーにも取り組んでいるほか、新型コロナウイルス感染拡大の制限下、各校内での推進活動及びSNSでの広報活動等を展開した。

【学生献血推進ボランティア】

山形大学、山形大学農学部、山形大学工学部、山形県立保健医療大学、東北芸術工科大学、東北公益文科大学



街頭献血における呼び込みの様子
(イオン東根店)



献血セミナーの様子
(新庄東高校)

(2) 広報及びキャンペーン活動

ア 広報活動

新型コロナウイルス感染拡大する中においても、献血者確保のため、広く県民に献血の普及啓発を図るべく、ホームページを通じ積極的に情報発信するとともに、県内報道機関への情報提供及び取材要請を実施した。

- ・ ホームページによる情報発信（通年）
- ・ SNS（twitter）による情報発信（通年）
- ・ めぐる献血プロジェクト
テレビ、ラジオ、WebCMの放送（令和4年9月7日～令和5年4月30日）
- ・ めぐる献血プロジェクト（アプリ篇）
テレビ、ラジオ、WebCMの放送（令和4年9月28日～令和5年4月30日）
- ・ 「はたちの献血」キャンペーン
テレビ、ラジオCMの放送（令和4年1月1日～令和5年2月28日）
- ・ 献血普及啓発テレビCM「折り紙チッチ」篇の制作・放送（令和2年3月から継続）
- ・ 県内各報道機関への献血予定情報の提供（通年）
- ・ 県内各報道機関へのプレスリリースの発信（通年）
- ・ モンテディオ山形と連携した広報活動の展開（通年）
- ・ パスラボ山形ワイヴァンズと連携した広報活動の展開（通年）
- ・ 県内市町村主催成人式における広報資材の配付（随時）

イ 各種キャンペーン、普及啓発イベントの展開

- ・ 全国キャンペーン

実施月	名 称
6 月	全血献血予約キャンペーン
	世界献血者デー（6月14日） ※ ABO 式血液型を発見し、ノーベル生理学・医学賞を受賞した カール・ラントシュタイナー氏の誕生日
7 月	愛の血液助け合い運動
8 月	コミックマーケット 100 献血応援イベント
9 月	めぐる献血プロジェクト（9月～通年）
12 月	全国学生クリスマス献血キャンペーン
	コミックマーケット 101 献血応援イベント（12月～1月）
1 月	はたちの献血キャンペーン（1月～2月）

・血液センター主催

学生献血サマーキャンペーン 2022	令和4年8月7日（日）～28日（日）内の 一部街頭献血会場にて開催
夏場の献血者確保を目的に、県内の一部街頭献血会場にて、献血にご協力いただいた方に、学生ボランティアが企画したオリジナル記念品を進呈した。	
東北6県けんけつ合同企画	令和5年1月10日（火）～ 献血予約実施会場にて開催
冬場の献血者確保及び献血予約強化に向け、献血ルームを含む県内の献血予約実施会場にて、事前予約をして400mL献血にご協力いただいた方に、オリジナル記念品を進呈した。	

・献血ルーム SAKURAMBO 主催

成分献血次回予約キャンペーン	令和4年4月1日（金） ～令和5年3月31日（金）
平日の成分献血の確保及び献血事前予約率の向上を目的に、献血終了後、次回の予約（平日の成分献血）をいただいた方に、オリジナル記念品を進呈をした。	
献血ルームでクールシェア!! Summer 献血キャンペーン	令和4年7月1日（金）～9月30日（金）
夏の暑い時期に、献血ルームを涼める場所としてPRし、献血者に快適な場所を提供する「クールシェア」を展開。また、期間中の平日の予約献血協力の方へ、記念品として「冷やしシャンプー」等を進呈した。	
モンテディオ山形応援キャンペーン 「モンテ応援デー」	令和4年2月17日（木）～10月25日（火） ※期間内の毎週火曜日・木曜日
毎週火曜日と木曜日を「モンテディオ山形応援デー」とし、特に使用期限の短い血小板製剤を安定的に医療機関に届けられるよう平日の成分献血の協力を求めた。期間中の毎週火曜・木曜に成分献血に協力いただいた方へオリジナル記念品を進呈した。	
献血ルーム SAKURAMBO 10周年記念キャンペーン	令和4年10月9日（日）～11月30日（水）
献血ルーム SAKURAMBO の開所10周年を記念し、日頃より献血に協力をいただいている皆様へ「感謝」の気持ちを伝え、より一層の献血協力依頼周知を図った。献血に協力いただいた方へオリジナル記念品を進呈した。	
県立図書館×献血ルーム SAKURAMBO 連携 イベント 図書館からSDGs!! 図書館で学ぼう!いのちを救う「けんけつ」	令和5年1月4日（水）～1月31日（火） ※親子向けイベントは1月21日（土）のみ
県立図書館を会場として、一か月間の企画展を実施し献血の普及啓発および献血ルーム SAKURAMBO の認知度向上を図った。また、イベントでは主に子育て世代の親子を対象とし、供給部門と連携した「オンライン見学ツアー」を含む献血セミナー、チラシづくりワークショップを実施した。	

・日本赤十字社山形県支部、赤十字奉仕団とのイベント

赤十字フェスタ in たかはた	令和4年9月23日（金）
地域の住民の皆さまに対する献血普及啓発を目的に、高島町赤十字奉仕団と合同でのイベントにて移動採血車を展示した。また、子ども用災害救護服・看護実習衣の試着体験や模擬献血体験を行い、写真撮影を行った。	
赤十字フェスタ in イオンモール天童	令和4年9月23日（金）
広く県民の皆さまに対する献血普及啓発を目的に、日本赤十字社山形県支部のイベントにて移動採血車及び献血運搬車を展示した。また、子ども用災害救護服・看護実習衣の試着体験を行い、写真撮影を行った。	

・地域イベントへの参加

イオンモール三川「はたらくクルマ展」	令和4年6月12日（日）
広く県民の皆さまに対する献血普及啓発を目的に、イベントにて移動採血車及び献血運搬車を展示した。また、子ども用災害救護服・看護実習衣の試着体験や模擬献血体験を行い、写真撮影を行った。	

・学校行事への参加

山形県立保健医療大学 学園祭	令和4年6月11日（土）
学生への献血普及啓発を目的に、山形県立保健医療大学での大学祭において献血を実施した。会場にて学生ボランティアが献血の呼びかけを行ったことで、学生から多数の献血協力をいただいた。	
新庄東高等学校主催献血 （会場：新庄市保健センター）	令和4年11月12日（土）
同世代の若年層への献血協力呼びかけを目的に、新庄東高等学校の生徒有志の主催による献血を実施した。献血の事前周知活動から、献血当日の献血者の誘導や記念品の進呈まで生徒自らが行ったことで、学生や地域住民から多数の献血協力をいただいた。	



学生献血サマーキャンペーン
（イオン米沢店）



CM「折り紙チッチ」編

(3) 献血予約及び複数回献血協力の推進

3密を回避するための新型コロナウイルス感染対策として、事前予約を広く周知するとともに、複数回献血協力の推進を図るため、献血 Web 会員サービス「ラブラッド」の登録を勧奨し、新規登録者数は前年度比 89.8%である。また、令和 4 年 9 月より献血カードのアプリ版「ラブラッド」がリリースされ、献血ルームでの当日予約や事前問診機能等、利便性の向上が図られる。

令和 4 年度 新規登録者数	令和 3 年度 新規登録者数	対令和 3 年度比	県内 登録者累計
3,551 人	3,956 人	89.8%	22,888 人

4 調査、研究事業の推進

輸血医療の質的向上を目的とした調査研究事業を推進し、適正かつ安全な輸血療法の向上をめざし、県と合同で山形県の血液使用量の 90%以上を占める医療機関とともに県合同輸血療法委員会を開催した。

(1) 山形県合同輸血療法委員会での取り組み

- ア 廃棄血削減に関する取り組み
- イ 適正な輸血の実施に向けた取り組み
- ウ 地域連携を基盤とした取り組み

(2) 委員会の開催と学会等への参加

実施日	名 称	場 所	摘要
5 月 27 日 (金) ～29 日 (日)	第 70 回日本輸血・細胞治療学会 総会	名古屋国際会議場 及び WEB 開催	血液センター職員 3 名 (WEB) 参加
9 月 9 日 (金)	第 23 回山形県合同輸血療法委員会	文書審議	委員 38 名参加
9 月 10 日 (土)	第 121 回日本輸血・細胞治療学会 東北支部例会	やまぎん県民ホー ル及び WEB 開催	血液センター職員 5 名 (現地) 参加
9 月 13 日 (火)	第 3 回山形県合同輸血療法委員会 看護師部会	WEB 開催	委員 11 名参加
10 月 11 日 (火) ～13 日 (木)	第 46 回日本血液事業学会総会	神戸国際会議場 及び WEB 開催	血液センター職員 6 名参加 (現地 4 + WEB 2)
11 月 26 日 (土)	第 33 回 長野県輸血懇話会	長野県赤十字血液 センター	血液センター職員 1 名 (現地) 演者と して参加

11 月 28 日（月）	輸血療法に関する看護師研修会 山形県合同輸血療法委員会看護師部会 （対象地区：庄内・置賜地区）	WEB 開催	参加実数 57 名
12 月 3 日（土）	2022 年度赤十字血液シンポジウム 東北	TKP ガーデン シティ仙台 及び WEB 開催	血液センター職員 2 名参加 （現地 1＋WEB 1）
12 月 10 日（土）	第 24 回山形県合同輸血療法委員会	WEB 開催	委員 29 名、血液 センター職員 4 名 参加
12 月 19 日（月）	輸血療法に関する看護師研修会 山形県合同輸血療法委員会看護師部会 （対象地区：山形市・上市市）	WEB 開催	参加申込人数 92 名

5 研修の受入

輸血医学事業の一環として、山形大学医学部生等を対象に、血液事業及び輸血医療に関する研修を実施した。

実施月	名 称	医療機関等	人数
通年	学外臨床研修	山形大学医学部	81 名
6, 10 月	初期研修医研修	日本海総合病院	3 名

6 造血幹細胞提供支援の実施

造血幹細胞提供支援機関として、骨髄ドナー登録希望者に対し、事前説明及び登録受付を献血会場にて実施した。

令和 4 年度新規登録者数	県内登録者累計
312 人	8, 218 人

7 血液センターの移転計画

山形センターの移転については、令和 4 年度から令和 5 年度の計画としており、令和 4 年度中に、移転候補地を取得予定。